

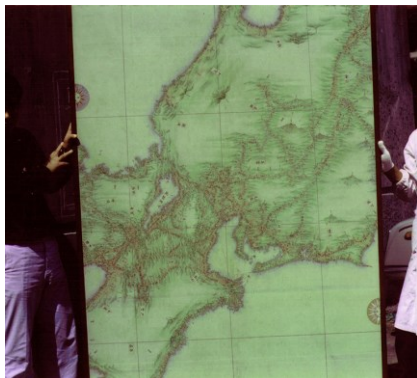
## 伊能中図保存修復事業報告（2）

## 1. 修復対象となる図の概要

修復対象の伊能中図7図は、元々東京大学理学部事務室にあったもので、昭和30年代に理学部旧地質学教室から同学部旧地理学教室に移管された。昭和43（1968）年に旧地理学教室が図の修復・表装を行っており、今日まで、旧地理学教室、地球惑星科学専攻により管理されてきた資料である。いくつかの種類がある伊能図の中で、これらの図は文政4（1821）年版の中図（1:216,000）と呼ばれる。同版の中図は本来8図で一揃いだが、昭和43年の修復時点で関東図幅を欠く7図のみだった。東北以南の5図は地図製作の際にできる針穴が残り副本と呼ばれるが、北海道の2図は針穴のない写本である。

## 2. 現状の問題点

現在、地理部門で保管されているこれらの図は、パネル装（額装）という古地図としては特殊な方法で保存されている。図周辺部の余白部分がパネルの裏側に回し込まれているため、本紙に常に張力がかかるうえ湿度変化による劣化が加わり、最悪の場合裂ける危険性があることが文化財修理の専門家から指摘されていた。また、本紙にはフォクシングが見られるが、過去に撮影された写真と比較すると色が濃くなっていることが認められ（下図）、本紙の劣化が時間とともに進行している可能性がある。これらを考え合わせると、資料は危険な状態にあり早期の修理が必要だった。



1973年頃撮影写真：フォクシングはそれほど目立たない。



現在の写真：縦に伸びるフォクシングが濃くなっている。

## 3. 伊能中図保存修復事業

2014年11月、伊能中図7図（「北海道東部」、「同西部」、「東北」、「中部」、「中国四国」、「九州北部」、「同南部」）すべての修理を目的として、理学系研究科地球惑星科学専攻から、住友財団の「文化財維持・修復事業助成」（<http://www.sumitomo.or.jp/>）に応募、翌年3月、同申請分（北海道2図）が採択された（事業名「大日本沿海輿地全図中図（伊能中図）保存修復事業」、助成番号145105）。

2015年度に実施した「北海道東部」、「同西部」の保存修復事業については、2016年4月の事業報告ですでに述べた。

## 伊能中図保存修復事業

2017年4月現在

実施	申請	実施	助成番号	修理対象図	助成金
	2014年度	2015年度	145105	「北海道東部」、「同西部」	629万円
理学系研究科	2015年度	2016年度	155003	◎「東北」、「中部」	643万円
〃	2016年度	2017年度	165004	「中国四国」	349万円
〃	2017年度	2018年度		「九州北部」、「同南部」	610万円(予定)
合計					2,231万円(予定)

※理学系研究科地球惑星科学専攻が助成金を申請し、専攻職員が担当

※理学系研究科が修復を実施（2016年度～）

## 4. 2016年度事業実施報告：「東北」、「中部」

2016年7月、半田九清堂（東京都渋谷区）に当該中図2図を搬出し、修理作業を行った。パネルを解体して本紙にかかる緊張を解放させることが基本となるが、昭和期の修復で原装の裏打ち紙に新に裏打ち紙が加えられているため、解体後は、この時に加えられた裏打ち紙は問題がなければ剥がし、製作当初の装丁と考えられる折畳装に戻す。

下の表は「東北」、「中部」についての紙の構造で、北海道2図との大きな違いは、原装の裏打ちが1層のみだったことである。そのため、昭和43年のパネル装時に、北海道より1層多い3層の裏打ちを施していた。

## 使用されている紙の構造 「東北」、「中部」

4層目 裏打ち	後補3回目（パネル装）	こうぞ・木材パルプ	針穴無し	昭和43年頃
3層目 裏打ち	後補2回目（パネル装）	こうぞ・木材パルプ	針穴無し	昭和43年頃
2層目 裏打ち	後補1回目（パネル装）	こうぞ・木材パルプ	針穴無し	昭和43年頃
1層目 裏打ち	原装 肌裏打ち	こうぞ	針穴あり	
本紙		こうぞ	針穴あり	

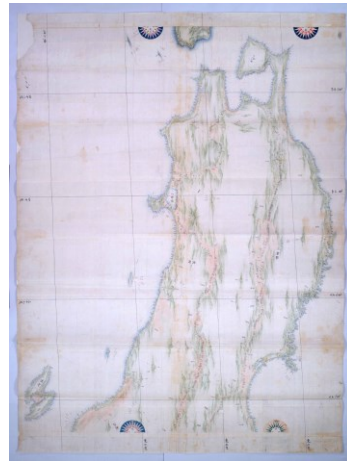
修理工程の詳細は、以下の通りである。

1. パネルの解体
2. 虫糞・汚れの除去①
3. 剥落止め
4. 紙質調査
5. 旧裏打ち紙除去（濾過水により湿りを与え四層目、三層目、二層目の裏打ち紙除去）、針穴確認
6. 旧補修紙の除去
7. 汚れの除去②
8. プレス乾燥
9. DIIPS (Digital Image Infill Paper System) による補紙、及び、亀裂等見られる箇所を薄美濃紙で補強
10. 折り畳み
11. 収納

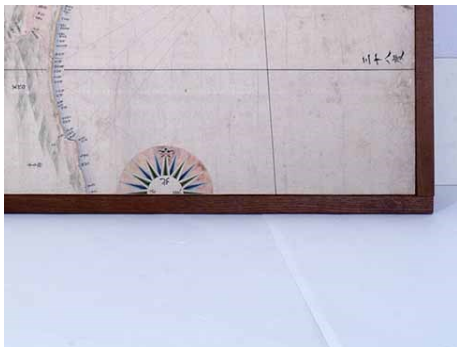
本年度事業は2017年3月完了し、当初の目的どおり、額装から折畳装に直すことで常にかかっていた張力から解放されたため、運搬時等に伴う万一の破損危険性がなくなった。フォクシングを軽減し紙質の劣化を抑えるためのクリーニングについては、本図が針穴本であり現状（針穴）を保存するという観点から、クリーニングは抑え気味とした。



「東北」修理前



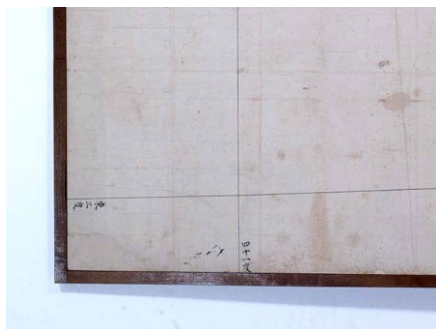
「東北」修理後



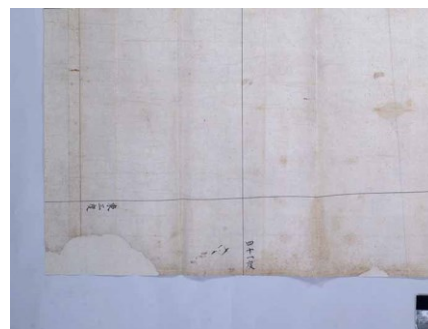
「東北」(修理前): 南辺は、関東図幅と繋がるため大きくパネルの裏側に本紙が回っている



「東北」(修理後): 木枠をはずしたことにより余白が出てきた



「東北」(修理前): すでに見られた欠損部分は、昭和43年の修理で補修紙が施されていた



「東北」(修理後): 昭和43年の補修紙は取り除き、新に補修紙を施す



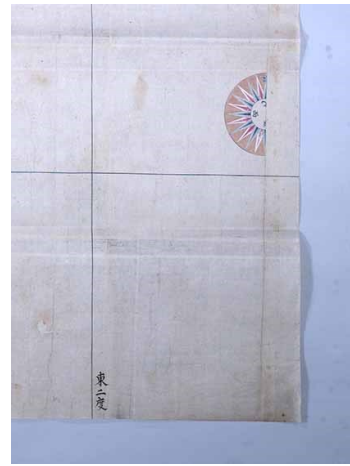
「中部」修理前



「中部」修理後



「中部」(修理前) : 東辺は、関東図幅と繋がるため大きくパネルの裏側に本紙が回っている



「中部」(修理後) : 木枠をはずしたことにより余白が出てきた



「中部」(修理前) : 継ぎ手が剥がれかけた部分



「中部」(修理後) : 十分に接着させた部分